

科目ナンバー： BC5103

授業コード： 2230501000

講義科目名称： 新生児看護論

英文科目名称： Neonatal Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	看護師課程選択必修
担当教員			
◎上田恵、小林宏至、黒崎美月			
添付ファイル			

授業種類	【開講】	【授業時間】		
	後期	15時間		
	【担当教員】			
	【氏名】	【所属】	【研究室】	【メールアドレス】
	◎上田 恵 小林 宏至 黒崎 美月 実務経験のある教員が担当します。	新潟県立看護大学 〃 〃	302 共同研究室1 共同研究室3	ueda@niigata-cn.ac.jp kobahiro@niigata-cn.ac.jp mitukuro@niigata-cn.ac.jp
	【大学の科目区分】			
	専門科目			
	【保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める種類】			
	看護師課程			
	【DP1】 【DP2】 【DP3】 【DP4】 【DP5】 【DP6】 【DP7】			
	○ ○ ◎			

到達目標	1. 胎児や新生児の倫理問題について自分の考えを述べることができる。 2. 胎児及び新生児の発達の特徴、および胎児期から新生児期への移行に対する看護実践が理解できる。 3. 新生児集中治療室におけるハイリスク新生児とその家族の特徴を理解し、必要な看護ケアについて思考できる。
------	---

授業概要	・意思決定が他者にゆだねられている胎児や新生児の人権を考えます。 ・母子関係－愛着形成のためのケアについて看護実践に基づいて考えます。 ・正常新生児のケア、ハイリスク新生児のケアについてより専門的、または臨床的視点で学びます。 ・新生児の蘇生について演習形式で学びます。
------	--

授業計画	1	胎児期 授業形態：講義（対面） 学修課題：周産期における倫理課題の理解 学修内容：胎児と家族の意思決定と倫理（出生前診断、非配偶者間人工授精など） 事前学修：生命倫理の4原則について復習する。 事後学修：課題レポート作成時に必要な自己学修を行う。 備考：上田
	2	周産期領域における遺伝看護 授業形態：講義（対面） 学修課題：小児・周産領域におけるゲノム看護の理解 学修内容：ゲノムと疾病（遺伝性疾患）、遺伝性疾患を有する子どもと家族への看護 事前学修：小児看護学各論テキストのpp.2～15を読む、1年次の基礎生物化学「遺伝」の授業資料を復習する。 事後学修：課題レポート記載に必要な自己学修を行う。 備考：小林
	3	新生児の特徴－胎児から新生児へのダイナミックな移行 授業形態：講義（対面） 学修課題：胎児から新生児への移行の理解 学修内容：胎児から新生児への適応生理（呼吸、循環、代謝（肝機能、消化機能、水分電解質バランス、皮膚） 事前学修：胎児循環を復習する。 事後学修：胎児から新生児への移行を系統的に復習する。 備考：小林
	4	出生直後からのアセスメントと看護 授業形態：講義（対面） 学修課題：出生直後から早期新生児期のアセスメントと看護の理解 学修内容：胎外環境への適応から早期新生児期の生理的変化を踏まえた看護 事前学修：第3回講義内容を復習する。 事後学修：出生直後から早期新生児期の看護を復習する。 備考：黒崎
	5	新生児の蘇生

	授業形態：演習（対面） 学修課題：新生児蘇生法のアルゴリズムと手技を学ぶ。 学修内容：演習 NCPR—Bコースに準ずる。 事前学修：NCPRアルゴリズムの流れを予習する。 事後学修： 備考：黒崎・小林・上田 6 母乳育児と愛着形成 授業形態：講義（対面） 学修課題：愛着形成を促す看護の実際を理解する。 学修内容：早期母子接触、母子同室、母乳育児の意義と実際 事前学修：母性看護学実習を終えて、母乳育児についてどのような感想を持ったか、発表できるように準備する。 事後学修：母子間の愛着形成について理論と科学的根拠を復習する。 備考：上田 7 ハイリスク新生児のアセスメントと看護 授業形態：講義（対面） 学修課題：ハイリスク新生児のアセスメントと看護の理解 学修内容：NICU看護の原則、早産・低出生体重児、未熟性に起因する医学的問題 事前学修：第4回講義内容を復習する。 事後学修：未熟性に起因する医学的問題について復習する。 備考：黒崎 8 ハイリスク新生児の看護の実際 授業形態：講義（対面） 学修課題：NICUにおける看護の実際を理解する 学修内容：ディベロップメンタルケア、ファミリーセンタードケア、終末期にある新生児とその家族への看護 事前学修：第1～7回までの講義内容を復習する。 事後学修：医療的ケア児に関する文献を読む。 備考：ゲストスピーカー（新生児集中ケア認定看護師）
評価方法、評価基準	1. 到達目標1の評価は、授業1・2回のあとにレポート課題で実施する（40%） 配点 1回目レポート：20点 2回目レポート：20点 2. 到達目標2の評価は、授業3・4回を対象として、全授業終了後に筆記テストを実施する（40%） 配点：3回目20点 4回目20点 3. 到達目標3の評価は、授業7回を対象として、全授業終了後に筆記テストを実施する（20%） 配点20点
必携図書	前年度に購入済み教科書を使用する。 奈良間美保他（2025）：小児看護学〔1〕小児看護学概論 小児看護学総論，第15版，医学書院。 丸光恵他（2025）：小児看護学〔2〕小児臨調看護各論概論〔2〕，第15版，医学書院。 森恵美他（2026）：母性看護学〔1〕母性看護学概論，第15版，医学書院。 森恵美他（2026）：母性看護学〔2〕母性看護学各論，第15版，医学書院。
参考図書・資料等	仁志田博司編（2024）：新生児学入門第6版，医学書院。 細野茂春（2021）：日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づく新生児蘇生法テキスト，メディカルビュー社。
受講、課題、資料配布等のルール	授業開始後20分以上の遅刻、授業中の20分以上の離席は欠席とする。 講義資料については、各講義ごとにドコカレで提示する。
教員からのメッセージ	教員から、一方通行の授業でなくて、近年の母子を取り巻く様々な問題に関して、ディスカッションしながら、自分の考えを言語化できるようにしていきましょう。 母性看護学・小児看護学における既習の知識を復習しながら、新生児についてより専門的に学びましょう。
オフィスアワー	事前にメールにて教員の予定をご確認ください。